

# 坂梨孝一さんを応援します！

坂梨孝一さんは庶民的で頼りになる気さくなオジサンです。向小金3丁目に移り約40年、地域の皆さんとお付き合いしています。大手通信機器メーカーで最先端システム開発などを行っていた、世間でいう「技術屋」さんです。でも決して硬い技術屋さんではありません。

退職後には培ってきた技術を生かし会社を設立。ビジネスで忙しい中、自治会役員を務めました。その傍ら向小金小学校避難所運営マニュアルを作成する大仕事を1年半かけて完成して頂きました。

また地域活性化のためボランティア活動に情熱をかけ、次々新しい企画を発信。ビニールのエプロンを介護施設に提供、子ども着物教室、ネットによる健康体操、踊り文化の継承、落語等… 近いうち新企画も立ち上がると聞いています。

坂梨さんは足元も守り、30年後50年後の市の姿も描ける方です。地元でも必要ですが、流山市のために働いて頂いた方が広く市民の為になると考え、私も応援しています。是非とも坂梨孝一さんを応援して頂けますよう、よろしくお願い申し上げます。



東自治会 会長 茂木功司

## ■ ボランティア活動

- ① 向小金小学校避難所運営委員会
- ② NPO法人コミュニティ活性化応援団
- ③ エプロン応援団
- ④ 流山落語同好会 (高座名: 徳利亭酒楽)
- ⑤ 交通安全協会指導員

## ■ 趣味

落語・映画鑑賞・サイクリング・DIY

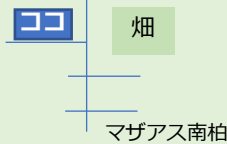
## ■ プロフィール 流山市向小金 (東自治会) 在住

1952年 福岡県大牟田市生まれ  
 1969年 福岡県立三池高等学校卒  
 1974年 国立九州工業大学工学部制御工学科卒  
 1974年 沖電気工業株式会社入社  
 2006年~2008年 ZigBeeSIGジャパン理事長  
 2007年~2008年 知的オフィス環境コンソーシアム副理事長  
 2008年 株式会社プロビデント創業  
 2020年 NPO法人コミュニティ活性化応援団設立 & 副理事長  
 2022年 NPO法人ふれあい広場ながれやま設立 (準備中)

## 「さかなし孝一後援会」 (政治団体届出済)

- 後援会長 茂木功司 (流山市東自治会 会長)
- 後援会事務所 270-0143 千葉県流山市向小金3-141-64  
☎04-7138-5557
- 連絡先 茂木 ☎090-5218-9779  
坂梨 ☎090-7255-2189

東自治会館



暮らせる流山

いつまでも豊かに



公式ウェブサイト



後援会にLINEで入会

# さかなし 孝一

保守系無所属

# 自助・共助がほんとに大切！

流山市政に参画することで「豊かな暮らしにつながる地域づくり」を目指している坂梨孝一です。「つつじ」創刊号では自己紹介と共に「自助・共助」の必要性について述べました。自助とは自ら生活を守っていくこと、共助とは地域住民が助け合うことで地域をより活性化していくことだと考えます。本号では自助・共助を強く考える契機となった2つのボランティア活動についてお伝えします。



## ■ 向小金小学校避難所運営委員会

市内の小中学校などは災害発生時には避難所となります。自治会や学校などで構成される避難所運営委員会が、その開設や運営に関する運営マニュアルを制定しています。私自身、東自治会の防災担当として関わる迄は、その存在は知っていたものの具体的に何をしているか知りませんでした。

向小金小学校避難所運営委員会では以下に取り組んできました。

- **運営マニュアルの整備**： 長崎小学校と流山市防災危機管理課が進めてきたマニュアルをひな形に、向小金小学校版マニュアルを作成。
- **事務局の設置**： 委員会メンバーの多くは任期には交代するため、活動の承継が難しい面があります。対応策として常任の事務局を設置。私も一員です。
- **避難所開設訓練の実施**： 委員会で訓練を実施。これを元にマニュアルの改良、充実化も図りました。



避難所開設訓練の様子

こうした中、令和2年に大型台風19号が発生、流山市でも避難所が開設されました。向小金小学校へも開設が指示され、校長・教頭先生らが体育館を解錠しました。数時間で指示解除となり避難所開設には至りませんでした。災害時にマニュアル通り運営できるか難しさを痛感しました。

ここから見てきた課題が大きく2つあります。

- **地域住民に認識してもらおう重要性**： 地域の方への認知が広がれば、活動にもご協力いただけ、避難所の開設や運営もスムーズにできると思います。

- **実地訓練の必要性**： マニュアルはできましたが、避難所開設や運営の実践が伴っていません。住民と共に訓練を行うなどして備えなければなりません。自然災害が増加している今こそ、これらの課題に早急に取り組む必要があります。

## ■ エプロン応援団

新型コロナが広がった3年前、医療介護現場でスタッフ用の防護エプロンが著しく不足しました。介護事業所では特に厳しく、知り合いの事業所から「ゴミ袋を使った簡易エプロンを作ってほしい」と声がかかりました。ゴミ袋を数ヶ所ハサミで切るだけですが、ウィルスを十分防護します。

ところが半端ない枚数が必要です。このため東自治会経由で協力者を募ったところ、瞬く間に約20名が集まってくださいました。更におおたかの森の仲間や西初石の民生委員の方も集めてくださり、総勢40名の応援団を結成。2年半ほどの活動期間に約3万枚のエプロンを複数の介護事業所に提供しました。

この活動は介護事業所のお役に立っただけでなく、副次的効果もありました。例えば、毎日のエプロン作りでリズムができ規則正しい生活になった方。メンバー集めで仲間の輪が広がり喜んでいる方。エプロン製作の生産性や品質向上を工夫する方。更に、介護事業者と応援団員で趣味の品を交換するなど、交流の輪も広がりました。

私も「コロナ禍の中、少しでも世の中のお役に立ちたい」という多くの方の善意に気付かせていただきました。相互に助け合う重要さも改めて認識した次第です。

この2つのボランティア活動を通じ、「自助・共助」の重要性を強く認識しました。また人々が集まり協力し合うことで生まれるパワーも実感しました。いろいろな課題解決のため、地域の皆さんに働きかけ、認識していただくきっかけを作ることも、私にできることの一つではないかと考えています。



エプロン応援団は「広報ながれやま」の他、NHK、朝日新聞、千葉日報、ちいき新聞などに取り上げていただきました。